

◎特集1 / 豊かな言語環境づくり推進事業

◎特集2 / 県立美術館特別展「シュルレアリスム展 謎をめぐる不思議な旅」

- 平成19年度公立高等学校入学者選抜学力検査成績調査結果報告
- 平成20年度入学者選抜の基本事項について
- スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールの取組と成果について
- 小学校理科支援員等配置事業の紹介
- 家庭教育の推進 ～子育てコーディネーター養成講座について～
- 県立博物館シンボル展 歌川広重の甲州日記展
幻のスケッチブック再発見! 166年ぶりに甲斐の国に。
- らくがき …… 静川小学校 近藤晴樹教諭
竜王中学校 雨宮博之教諭
- 平成19年度学校教育指導重点 (特別留意事項)
- 学校紹介 / 山梨市立笛川中学校・市川高校
- 総合教育センター情報 / 教育指導部
- 県立図書館 / 「図書館員の道具箱…テーマ別調べ方ガイド…」
- 山梨の文化財 / 県指定有形文化財 棲雲寺開山墓出土常滑甕
- 主な行事予定



特集1

豊かな言語環境づくり推進事業

— 義務教育課 —

◇事業の趣旨

「確かな学力と伝え合う力を育てる国語力の向上」のためには、子供たちの言語環境を整備していく必要があります。

そこで、本事業は「豊かな言語環境づくりプログラム」を策定して、それを、すべての小・中学校で推進していくことで、国語力の向上を目指しています。（平成18年・19年の2年間の事業）

◇言語環境とは

ここでいう言語環境とは、子供たちを取り巻く言語に関する環境のことです。それは子供たちの生活そのものです。このプログラムにおいては、この広い言語環境を「学校生活」を中心にとらえました。その具体像は、次ページの表に示してあります。

◇「リーフレット」と「活用の手引」の配布

本事業を推進するに当たって、「国語力向上推進協議会」を立ち上げました。学校教育関係者を

はじめ、学識経験者、有識者、保護者、図書館関係者などで構成され、事業の推進に向け様々な協議を行っていきます。昨年度、この協議会では、「豊かな言語環境プログラム」を策定し、その普及のために「リーフレット」と「活用の手引」を作成し、すべての小・中学校の教職員に配布しました。（その一部を本ページ・次ページに示しました。）

◇豊かな言語環境プログラムについて

豊かな言語環境プログラムは、次の五つの「基本項目」が柱になっています。

- ① 学校の環境整備
- ② 教師自身の言語環境づくり
- ③ 児童生徒の言語環境づくり
- ④ 読書生活の充実
- ⑤ 家庭・地域との連携

この「基本項目」にそって、22の「課題」と58の「方策」を示しました。さらに、それぞれの「方策」には取組のための「具体例」を示しました。

1 教師は、適切な言葉づかいで 手引 No.7～No.9 参照

教師は正しく、ていねいで、温かい言葉づかいをしましょう。そのためには、自分自身の言葉づかいをテープなどに録って聞き直したり、児童生徒や同僚から意見を聞いたりすることが有効です。

正確な字で、ていねいに、工夫して板書するように努めましょう。そのためには、板書計画を立て、色チョークやマグネットシートなどを効果的に使しましょう。自分の板書を振り返ったり、同僚と見合ったりすることも大切です。

手引 No.10 参照

3 あいさつの習慣化を 手引 No.14～No.16 参照

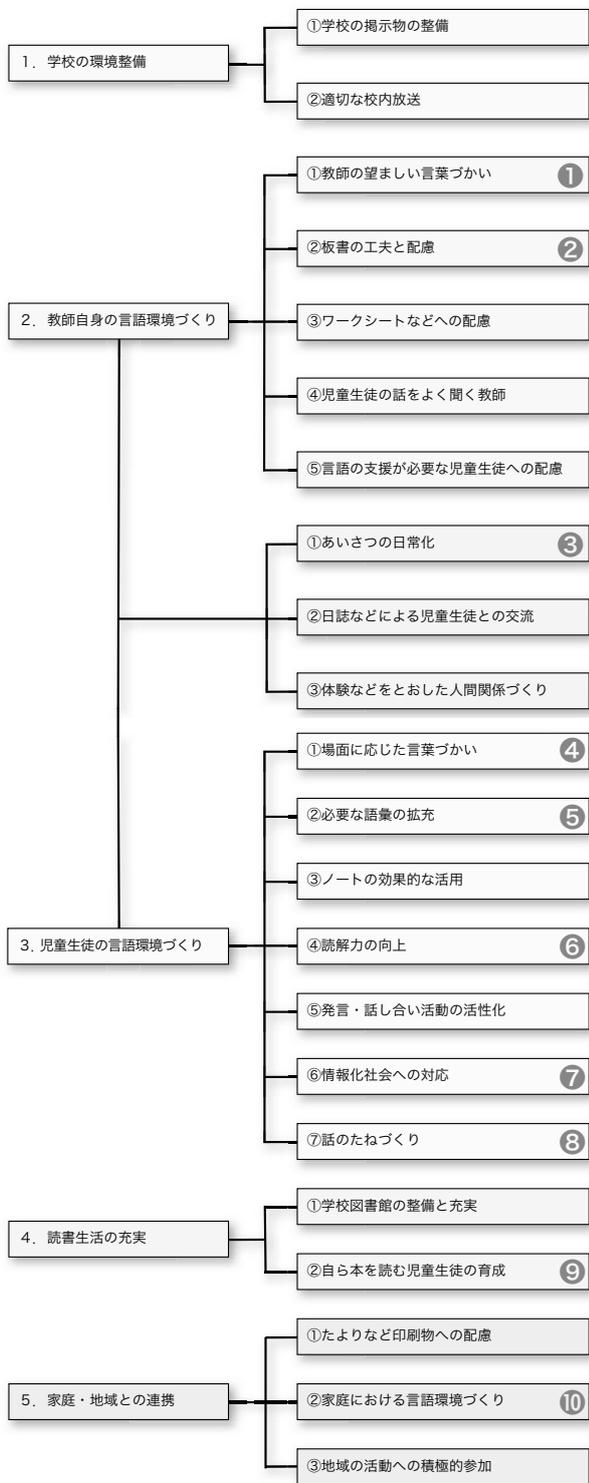
あいさつは、豊かな言語環境のための基盤となるものです。あいさつの習慣化を図るためには、児童会・生徒会の取組が効果的です。ポイントは、[あ]かるく、[い]つでも、[さ]きにずる、[つ]づける、です。

場面に応じた言葉づかいと声量で話せるように指導しましょう。そのためには、目上の人と話す機会を設けたり、言われてうれしい言葉・いやな言葉などをロールプレイで体験させたりすると効果的です。

手引 No.20～No.25 参照

4 場面に応じた言葉づかいと声量で

豊かな言語環境づくりプログラム



※ 表中、①～⑩は「リーフレット」との対応項目を示しています。一部、右ページに示してあります。



◇各小・中学校での推進

今年度は、山梨県下のすべての小・中学校において、このプログラムを推進することになっていきます。まず、「言語環境実態調査」により、児童・生徒と教師の言語環境に関する実態を把握し、それを分析した上で、各学校の実態にあった「言語環境づくり」を本プログラムに沿って、推進していくこととなります。具体的には、「読書活動の活性化」「あいさつ運動の推進」「漢字習得への取組」「言葉づかいの改善」「読解力の向上」「学校図書館の整備」「話し合い活動の活性化」など、様々なことが考えられます。

◇実践事例集の作成と配布

今年度は、各校での優れた取組の様子を収集し、「実践事例集」を作成し、すべての小・中学校に配布する予定です。これにより、この取組が次年度以降も継続され、更に発展し広がっていくことを期待しています。

山梨県内のすべての小・中学校が言語環境整備に取り組むことにより、子供たちの学習環境がよくなり、国語力の向上が図られると考えています。さらに、それが確かな学力の育成につながっていくものと考えています。

特集2

「シュルレアリスム展 謎をめぐる不思議な旅」

— 県立美術館 —

「シュルレアリスム展 謎をめぐる不思議な旅」

現実とはいったい何なのか。この謎に正面から向き合ったのがシュルレアリスム（超現実主義）運動です。第一次世界大戦で荒廃したヨーロッパにおいて、理性中心主義の社会に疑問を感じたシュルレアリストたちは、眼前の現実だけにとらわれず、その向こうに横たわる「真の現実」を描き出そうとしました。彼らは日常と非日常、意識と無意識、現代社会と未開社会など、それまで分断されていた二つの領域を統合することで、そこに「純粹な生」を見出し、精神性の復活を図りました。それはやがて文学、美術、映像などを包括する20世紀最大の芸術運動へと発展します。

マックス・エルンストは自動記述（オートマティスム）という手法によって、無意識のうちに顕れるイメージから作品を生み出しました。サルバドール・ダリやルネ・マグリットは、意外な物

と物とを隣り合わせて描くことで、不思議な世界を創り出しました。偶然性や非日常性を重視したシュルレアリスムの作品には、奇妙で謎めいた表現が多く見られます。しかし、これらはみな、理性に制御されることのない自由な精神によって、それぞれの「現実」を表現しようとしたシュルレアリストたちの革新的な思想を反映しているのです。

本展では、「ようこそシュルレアリスムの世界へ」「意識を超えて」「心の闇」「夢の遠近法」「無垢なるイメージを求めて」という5つの章によって、西洋の美術家29人の作品、約130点を展示し、シュルレアリストたちが追究したイメージや手法を分かりやすく紹介します。さあ、謎をめぐる不思議な旅のはじまりです。

会 期：平成19年6月2日（土）～

7月8日（日）

休館日：月曜日

会 場：特別展示室

開館時間：午前9時30分～午後5時

（入館は午後4時30まで）

入 場 料：一般 1000（840）円

大・高生 500（420）円

中・小生 260（210）円

（ ）内は20名以上の団体、前売券、宿泊者割引料金

小・中・高校・特別支援学校生は土曜日

無料



ルネ・マグリット《現実の感覚》1963年
宮崎県立美術館蔵

©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2007

親と子で見る「絵本原画」展―宮城 県美術館コレクションから―

絵本は子どもが初めて手にする本で、絵が中心です。子どもは、何回も何回も同じ絵本を眺め、大人が考える以上に絵に入り込み、大人が気づかない細部まで興味を持って覚えていきます。絵本の絵が頭に残っている子どもにとって、原画は更に魅力的なものに見えることと思います。一方、絵本原画は、画家が水彩や油彩、コラーージュ、ミクストメディアなどによって創りあげた純粋な美術作品そのものなのです。子どもにわかりやすい具象的、写実的な作品もあれば、抽象的なもの、デザイン的なものもあり、大人にとっても魅力的な絵画です。

本展は、親子で楽しめる展覧会として、「こども」とも「シリーズを中心に、国内で最も多くの絵本原画を所蔵する宮城県美術館の協力を得て開催するものです。出品作品は、長新太の『どろりんげん』、なかのひろたかの『ぞうくんのさんぼ』、太田大八の『どうぶつたちのおかいもの』、荻太郎の『かじやとようせい』など多くの人が親しんだ絵本の原画約76点です。また、会場には実際に

手にとって見られる絵本も用意してあります。この機会に絵本と原画の両方をお楽しみください。

会 期：平成19年7月21日（土）～

8月26日（日）

休館日：7月23・30日、8月6・20日

会 場：特別展示室

開館時間：午前9時30分～午後5時

（入館は午後4時30まで）

入場料：常設展の観覧券でご覧になれます。

一般 500（400）円

大・高生 210（160）円

中・小生 100（80）円

（ ）内は20名以上の団体料金、宿泊者割引料金

引料金

小・中・高等・特別支援学校生は土曜日無

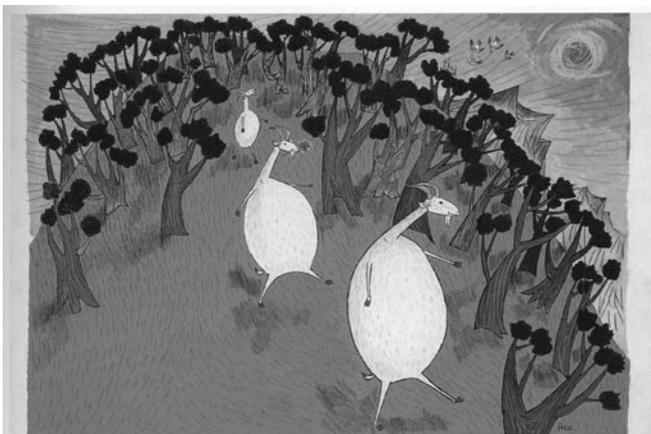
料

高齢者（65歳以上・健康保険証等持参）、

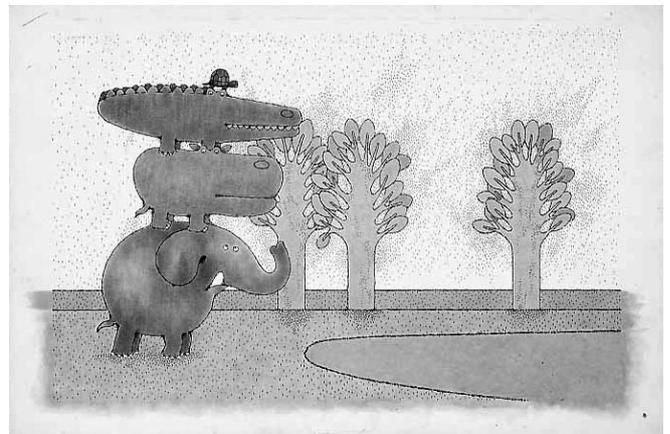
障害者手帳所持者は無料、県内の小・中学

生は無料（フリーパスポートを持参してく

ださい。何回でも無料で入場できます。）



池田龍雄《三びきのやぎのがらがらどん》1959年



なかのひろたか《ぞうくんのさんぼ》1968年

平成19年度公立高等学校入学者選抜学力検査成績調査結果報告

－ 高校教育課 －

平成19年度山梨県公立高等学校入学者選抜学力検査を3月6日に実施しました。

その検査結果について、総合平均点の推移と、各教科の結果を考察し、以下のようにまとめました。なお、教科別調査結果の考察は、全教科（5教科）を受検した者4,917人（男子2,697人／女子2,220人）の中から無作為に抽出し、調査した結果を考察しています。抽出人数は493人で、全体に占めるその割合はおよそ10％になります。また、全ての高等学校の受検者を対象に、その高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく抽出しました。

I 総合得点について

本年度の総合得点の平均点は273.4点で、前年度より28.2点上がりました。最高点は474点、最低点は47点でした。男女別に比較してみると、男子は274.0点、女子は272.7点で、男子が女子より1.3点高くなっています。

平成15年度から今年度入試まで5年間の全体平均点は（図1）のように推移しています。各年度ごとの難易度に差があり単純な比較はできませんが、5年間で最高となっています。

なお、各教科の平均点とその推移は（図2）のとおりです。

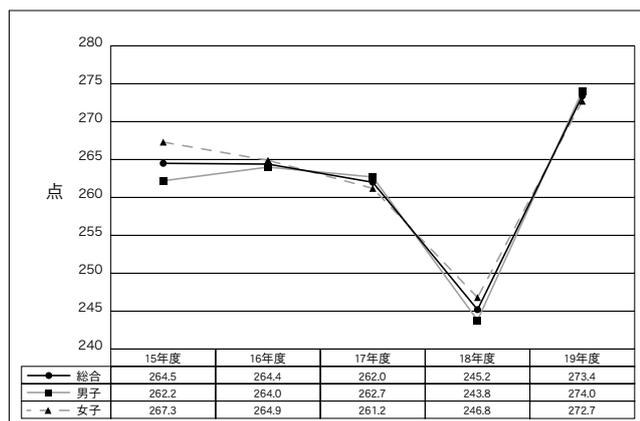
II 教科別調査結果の考察

○国語

基本的な常用漢字の読み書きや部首の組み合わせなど、漢字を認識する力は身に付いています。書写では、漢字の書き順や漢字の構造に関する知識不足が見られます。

また、文脈で用いられている助詞や語句の意味を類推する設問では、語彙力の不足が顕著に現れています。説明的文章や文学的文章の分野とも、選択肢や指示語に関する設問は正答率が高くなっています。図と文章を比較して脈絡を正しく読み取ったり、自分の言葉に置き換えて理解し、それをもとに考察を進める読解は、習熟していない傾向が見られます。概して、基礎的な学習は身に付いていますが、様々な文章に触れ、文章を書

過去5年間の総合平均点の推移（図1）



いたり、人とのコミュニケーションを図り、語彙力や読解力を、一層高めるような指導が必要です。

○社会

基礎的・基本的な部分に関する知識や理解力、資料活用能力、思考・判断力は概ね身に付いています。しかし、複数の資料から読み取った情報を、問いに沿って論理的に結びつけ、答えを導き出していく力は不足しています。県名とその位置や核軍縮に関する正答率は低く、身近な話題や社会現象などに関心を持つ態度が必要です。また、色々な資料をもとに考察する、資料活用能力の育成も必要です。

○数学

基礎的・基本的な知識や技能は定着しています。数学的な見方や考え方が要求される設問や複数の領域の内容を総合して扱う設問では正答率が低くなっています。単に問題を処理するための知識や技能の習熟にとどまらず、身近な場面や数学的な事象について、基礎的・基本的な知識や技能を積極的に活用するとともに、数学的な見方や考え方を磨き、創造的な思考力を身に付けることが必要です。

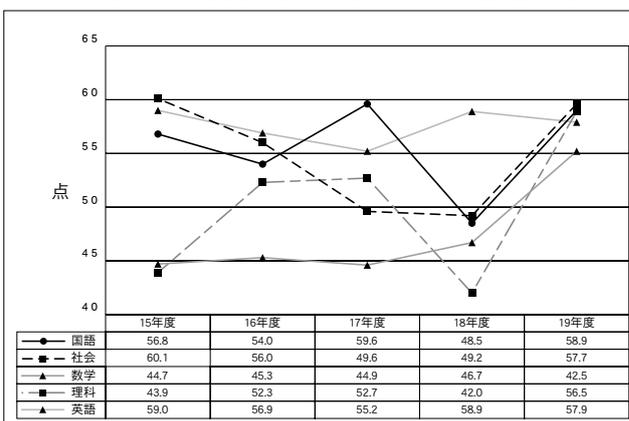
○理科

基礎的・基本的なことを答える問題や問題集等にあるパターン化された問題についての正答率は高くなっています。一方、複数の知識を融合して考える設問についての正答率は低くなっています。また思考力を問う問題に関しては、結論を組み立てていくことに課題が多く見られます。一つ一つの現象を論理的に考察する態度を身に付ける必要があります。

○英語

「聞くこと」「話すこと」をはじめとして、基本的な英語運用能力については、概ね良好な結果が得られました。しかし、「読むこと」「書くこと」について、英文全体の流れを正確に理解する力が不足しており、文脈の理解力と表現する力には課題があります。日常的なテーマについて、まとまった内容を自分の言葉で要約したり表現できるような英語力の育成が求められます。

過去5年間の各教科の平均点の推移（図2）



平成20年度入学者選抜の基本事項について

— 新しい学校づくり推進室 —

山梨県教育委員会は、去る5月9日に平成20年度の入学者選抜に関する基本事項を公表しました。その概要は次のとおりです。

1 全日制前期募集

①募集人員 募集定員のうち、次の範囲の中から各高等学校長が決定した比率をもとに教育委員会が定めます。

ア 全日制普通科（コース及び単位制を含む）

募集定員の10%～30%（コース指定については、普通科の率と同じとします）

イ 専門教育学科（理数科、英語科、文理科及び国際教養科）

募集定員の20%～40%

ウ 職業に関する学科

募集定員の30%～50%

エ 総合学科

募集定員の20%～40%

②出願の制限 一人一校、一学科に限ります。

2 全日制後期募集

①募集人員 募集定員から前期募集の入学許可予定者と内定された者の数を減じた数を募集します。（各高等学校の募集定員は11月上旬に公表予定）

②出願の制限

ア 一人一校に限ります。

イ 前期募集の入学許可予定者として内定された者は後期募集に出願することはできません。

ウ 全日制及び定時制の両課程を併願することはできません。

エ 高等学校に普通科、専門教育学科又は総合学科が設置されている場合、志願する学科のほかに、第二希望まで志望順位を付けることができます。

オ 職業に関する二つ以上の小学科・コースを有する高等学校で小学科・コース別に募集している場合、志願者は学科・コースに、第二希望まで志望順位を付けることができます。

3 全日制再募集

①実施校 前期募集及び後期募集の結果、入学許可予定者が募集定員に満たない場合に実施します。

②出願資格 学力検査受検者（病気等やむを得ない理由により学力検査を受検することができなかったと志願先高等学校長が認める者を含む）で、出願時に国・公・私立のいずれの高等学校にも合格していない者です。

③出願の制限 全日制の課程における後期募集に準じます。

④定時制課程入学者選抜

①出願資格 全日制の課程における後期募集に準じます。

②出願の制限 全日制の課程における後期募集に準じます。

5 定時制課程再募集

①実施校 入学者選抜の結果、入学許可予定者が学科の募集定員に満たない場合に実施します。

②出願の制限 全日制の課程における後期募集に準じます。

6 その他

①全日制前期募集内定日（2月1日）から、後期募集出願期間の初日（2月18日）までの期間について、後期募集出願に向けた準備や、中学校の指導の充実等を考慮し、土日祝日を除いて9日間とし、19年度より2日増やしました。

②詳細については、別に定める「平成20年度山梨県公立高等学校等入学者選抜実施要項」によります。（10月下旬公表予定）

平成20年度 入学者選抜の日程

全日制		定時制		全日制			
1月	10日(木)	前期募集出願期間		前期募集 面接 *作文 調査書 *特技 *個性表現	前期募集		
	11日(金)						
	15日(火)						
2月	23日(水)	前期募集検査 (予備日)			後期募集 学力検査(5教科) 調査書		
	24日(木)						
	25日(金)						
2月	1日(金)	合格発表	後期募集出願期間	定時制出願期間	再募集 後期募集の学力検査結果 面接 *作文 調査書 *学力検査 ※*印は、各高校が必要に応じて実施		
	18日(月)						
	19日(火)						
	20日(水)						
	22日(金)						
	25日(月)	志願変更期間					
	26日(火)						
3月	5日(水)	後期募集検査	定時制検査	定時制検査	定時制		
	6日(木)						
	12日(水)	合格発表				定時制合格発表	定時制検査
	13日(木)						学力検査(5教科) 面接 調査書
	14日(金)	再募集出願期間					
	17日(月)	再募集検査					
	18日(火)					定時制再募集	定時制再募集
	19日(水)	再募集合格発表				再募集出願期間	学力検査(3教科) 面接 調査書
	21日(金)						
	24日(月)					再募集検査	
26日(水)		再募集合格発表					
4月 公立高校入学							

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールの取組と成果について

山梨県立甲府第一高等学校

はじめに

本校は平成16年度に、文部科学省より、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）研究指定校として認定されて以来、「国際社会に生きる上で必要な発信力を段階的に高めるための指導法・教育課程の研究」という研究開発課題のもと、平成18年度までの3年間様々な研究開発に取り組んできました。

次に3年間の主な取組と成果の一端を紹介します。

1 「英語力シラバス」

本校では「学校としての英語力の到達目標」を示した「英語力シラバス」を作成しました。従来の4技能に語彙力、文法力を加え、6つの観点にそれぞれ到達目標を設定することで、従来のような教科書を終了することを目標とするのではなく、教科書で学習したことをふまえて「何ができるようにするか」を明確にし、授業に取り組みできました。これは従来の指導で最も欠如していたことだと思います。これによって、目標を明確にすることで指導と評価が一体化するようになったこと

は言うまでもありません。従来からの「目標—計画—授業—評価」という一連の流れを常に意識して今後も授業を行っていきたいと考えます。

2 「授業改善—訳読式授業からの脱却—」

授業においては、訳読式授業からの脱却、教員の英語多用、生徒の英語使用量の増加、目標に沿って「タスク」中心に組み立てた授業プリントの使用、教科書で学習したことを発展的に応用する授業など様々な工夫・改良を試みてきました。さらに、「和訳先渡し授業」を行い、生徒が英語に触れる時間（読んだり、聞いたり）を増やし、授業内で英語を使うことを意識した授業づくりに取り組みました。その結果、生じた時間の多くを英語でのプレゼンテーション・ディスカッション・ディベートなどに割くことができました。このような授業を継続することで英語を話すことに慣れ、徐々に話す力が付いてきました。このことはTOEIC® BridgeやCTECなどのテストの結果からも明らかです。目標を設定し、それを達成するための指導過程をよく考え、工夫し、実行し、評価することで

生徒へフィードバックする。これを英語科教員が全員で継続して実践することで十分効果を得られたと考えます。



3 「授業計画の共有化」

従来は各教員個人の考えや指導方法に大きく依存していた感のある授業計画・内容・展開ですが、「英語力シラバス」を共通の目標として、学年担当者間で研究・協議を重ねることで新しいアイデアを取り込み、工夫を加えた授業が可能になりました。また、同一

教材を複数の教員が別々に作成するという時間がなくなつたため、他の教材研究にかけられるようになりました。更に、何度も公開授業や研究協議を行ったため、授業の質も高くなりました。

おわりに

以上が本校での主な取組・成果です。今後もPOST-SELHi高として今までの研究成果をさらに研鑽してより良いものに変え、より多くの先生方に伝えていきたいと考えています。



小学校理科支援員等配置事業の紹介

— 義務教育課 —

1 事業の目的

この事業は、小学校五、六年生の「理科」の観察や実験等の体験的な学習の時間に「理科支援員」や「特別講師」を配置し、これら人材が教員の支援を行うことにより、理科等の授業の一層の充実・活性化を図り、理科の基礎・基本の確実な定着と児童一人一人の学習意欲の向上を目指しています。また、観察・実験等の体験的な学習における教員の指導力を向上させることも目的としています。

2 事業の内容

山梨県教育委員会が、(独)科学技術振興機構(JST)と事業契約を締結し、事業の委託を受けて次の取組を行います。

「理科支援員」は、授業での支援を中心に、教材研究、観察・実験の準備や片付け、理科室や理科準備室等の理学的環境整備も行います。

「特別講師」は、大学教授や退職教員等の中で理科に対する専門分野のエキスパートを小学校五、六年生の理科の授業に派遣し、単元の導入や発展的な学習内容に対して、先端技術やものづくり技術の伝授、講義等をおして教員の支援を行います。

3 運用の実例

実際の運用としては次のような例が考えられます。

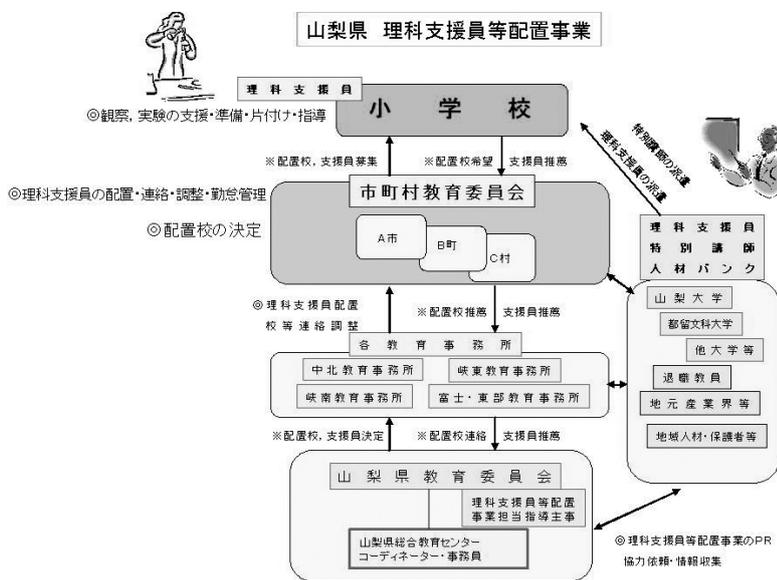
○ 電流を流したコイルのはたらき (準備①、実験補助①、片付け①) 4時間	○ コイル製作 (準備①、製作補助②、片付け①) 4時間	○ 電磁石の極調べ (実験補助①、片付け①) 2時間	○ 電磁石の極と乾電池のつなぎ方の実験 (補助①、片付け①) 2時間	○ 銅線の巻数や電流の強さと電磁石の強さの実験 (準備①、補助②、片付け①) 4時間	○ 簡単なモーターを使った物づくり (準備①、製作補助④、片付け①) 6時間
---	---------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------	---	---

理科支援員20時間
六年 単元「電流のはたらき」

4 支援員の配置・特別講師の派遣

この事業は、五年間の実施予定です。今年度、支援員を県下の全学級の35%に配置し、特別講師は年間60回の派遣を予定しています。

本年度は、九月から各学校に配置、派遣します。この事業をおして、児童一人一人がもつと理科が好きになり、理科の基礎・基本が体験を通して身に付くとともに、山梨の豊かな自然の中で、自然の事物現象を確かに理解していけるような取組を進めていきたいと考えています。



家庭教育の推進

子育て支援コーディネーター養成講座について

社会教育課

○はじめに

現在、子育ての現状については、核家族化や少子化、地域における地縁的なつながりの希薄化により、家庭の教育力低下や子育ての危機が叫ばれています。このような中、本県では家庭教育推進事業の一環として、全市町村への相談支援体制の整備と人材育成をめざして「子育て支援コーディネーター養成講座」を開設しています。

○事業内容

本講座は、山梨県立大学の人間形成学科と社会教育課共同で地域研究交流センターの講座としておこなっております。年間八回講座を開き、定員は四十名です。五ヶ年間で合計二百名のコーディネーターを養成しようとしており、本年度で三年目を迎えます。

《学習内容》

- 講座一 子育て支援の施策と課題
- 講座二 子どもの発達と遊びの援助

講座三 子どもの人権・虐待予防

講座四 子育て環境・子育て状況を考える

講座五 親への支援・子育て相談

講座六 インターネット活用術

子育て支援の情報入手

講座七 子育て支援「夢企画」コーディネート力の育成

講座八 山梨の子育て支援を担う

《受講の様子》

講座は、講義だけではなく演習を多く取り入れ受講者自身の課題解決とネットワークづくりに力を入れていきます。

講座は、講義だけではなく演習を多くの発達に大きな影響を及ぼすことを体験しました。



子どもの発達と遊びの援助

「子どもの発達と遊びの援助」では、体育館で実技演習をおこない、受講者が触れ合うと共に子どもの発達段階での環境づくりや言葉かけ、関わり方の重要性を学びました。特に幼児期における遊びは大切であり、笑顔で触れ合うことが、身体的だけではなく心

○おわりに

本事業を実施することにより、多くのコーディネーターの方々がネットワークを広げ、この講座で培われた力を地域・職場で生かし、家庭の教育力向上に結びつけていただけることを期待しています。



インターネット活用術

また、「インターネット活用術」では、検索サイトでの情報収集の仕方等を各グループごとテーマを決め作成しました。山梨の地域性や山梨らしさを踏まえ「いかに夢のあるプランをつくるか」を念頭におき、楽しさが伝わるチラシ等も作成し発表することができました。

歌川広重の甲州日記展 幻のスケッチブック再発見！

一六六六年ぶりに甲斐の国に。

— 県立博物館 —

広重の甲州日記とは

『東海道五十三次』の大成功によって、浮世絵に風景画の新境地を開いた歌川広重。その江戸で人気の浮世絵師広重が、天保十二年（一八四一）に、「甲府道祖神祭」の飾り幕を描くために甲府を訪れました。「甲州日記」は、この時に広重が記録した旅日記です。江戸から甲府までの道中や、甲府での歓迎ぶり、幕絵の作品制作の様子が生き生きと綴られています。

「甲州日記」は、広重と甲府の人々との交流や、広重の制作活動や人柄を伝える貴重な文献としてよく知られていましたが、その原本の前半は関東大震災で焼失し、後半の写生帳は国外に出て行方不明のままでした。

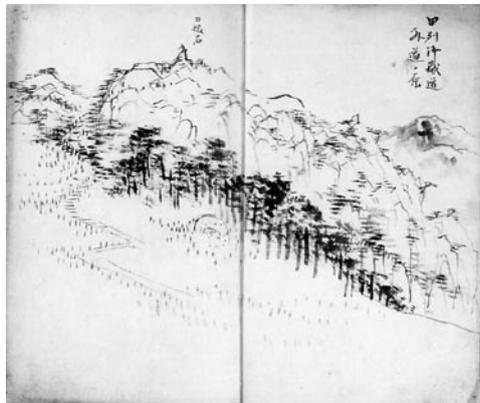
三年前、その後半の「甲州日記写生帳」がアメリカで再発見されました。今回、その幻のスケッチブックといわれた写生帳が、描かれた甲斐の国に一六六六年ぶりに戻って公開されます。

写生帳は縦約二〇センチ、横十三センチの和綴じの冊子で、ほとんどが見開き二ページにわたってスケッチが描かれています。ラフな墨の運びや描かれた対象の臨場感、このスケッチが後に清書されたものではなく、旅の途中でまさに目の前に広がる景観を広重が写し取ったものであることがわかります。

ます。

広重の甲州旅行をたどる

旅は金櫻神社の参詣道である「御嶽道」から始まります。広重は現在昇仙峡と呼ばれる御嶽新道が開通する前によく使われていた「外道」を歩いています。刀拔石や鞍掛石、象ヶ鼻など、奇岩を眺めながら金櫻神社の大鳥居が家並みの向こうに望むところまで、山道を上っています。



甲州日記写生帳より 甲州御嶽道 外道ヶ原

州道中」です。絶壁が続く山道「座頭ころばし」や、高尾山、大善寺、酒折宮、善光寺など寺社仏閣の境内のスケッチが続きます。そして最後に十一月の十日間の日記が記されています。広重の普段の筆跡がわかる貴重なページです。



甲州日記写生帳より 善光寺

も現地を訪れると、山々や川の織りなす遠近感や空間の広がり、寺社境内の配置がしつかり写し取られていることがわかり、改めて広重の風景描写の巧みさを感じることができます。今回の展示では、甲府滞在中に描かれた肉筆画や、旅の成果として制作された版画も展示します。

また、常設展示室には、そもそも広重の旅の目的であった「甲府道祖神祭幕絵（山梨県指定文化財）（幅約十メートル）の現存唯一の一枚も展示します。天保十二年の広重を垣間見ることのできる貴重な機会ですので、ぜひ博物館にお越しください。

《開催期間》
平成一九年六月二六日（火）～七月二九日（日）

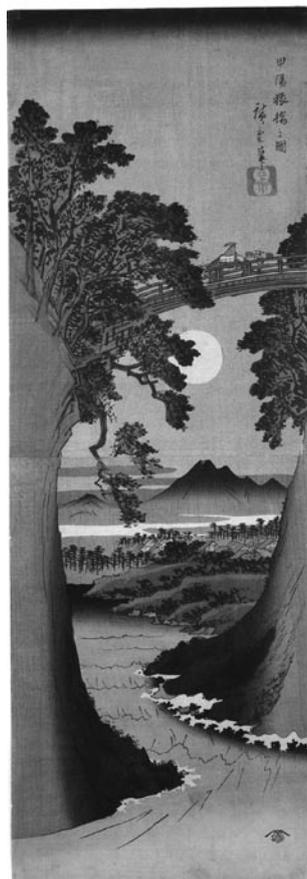
（常設展の観覧券でご覧になれます）

《お問い合わせ先》

山梨県立博物館学芸課

電話 〇五五（二六二）二六三一

いずれのスケッチも描写は的確で、今



次に歩いたのは、甲府盆地から富士川沿いに駿河に南下する「身延道中」です。富士川舟運の要衝、鰍沢河岸や早川との合流点付近の奥行きのある景観が広がっています。その次には、江戸と甲府を結ぶ「甲



「子どもたちのエコボランティア体験」

近藤 晴樹

「ピピー。」試合終了の長いホイッスルが鳴り、ヴァンフォーレ甲府の勝利に沸く大観衆の歓声が地鳴りのようにスタジアムの外まで響いてくる。

「さあ、忙しくなるぞ。みんながんばってよ！」

その声に、緊張の面持ちでリユースカップと引き替えに返金する百円玉を握りしめる子どもたち。

観戦を終え、続々とリユースカップを持ってやってくる観客。まとめていくつかのカップを持ってくる人もいる。間違いのないように返金しなければならない。教室の中では見られないような子どもたちの真剣な表情。恥ずかしがり屋の子も「ありがとうございました。」のあいさつがしっかりできています。

「環境」をテーマにした総合的な学習の一環で、子どもや保護者と一緒に、ヴァンフォーレ甲府の「エコボランティア」に参加した時の様子だ。

観客の中には「ご苦労さん。えらいねえ。」などと声をかけてくれる方もいた。指導して下さったNPO法人の方々からも「みんなよくがんばったね。感心したよ。」との言葉をいただいた。それらの言葉は、子どもたちにとって何よりもうれしく、自信や意欲につながる評価となった。

活動を終えた子どもたちの笑顔に、心地よい風が吹き抜けていった。

(静川小学校)

らくがき



「美しきかなメタボリック」

雨宮 博之

メタボリック。何と耳に心地いい響きだろう。こういわれると、何か自分の体が美しくなったような錯覚に陥る。そう、私は、今流行りの「メタボリック症候群」なのだ。とはいえ、私は、そこいらに転がっている、ただの中年太りとは訳が違う。私の体の脂肪は、生まれたときから一度たりとも絞られたことがないという、年季が入ったものなのだ。

愛着のあるわが肉体であるが、時々、その煩わしさから、お別れしたいと思ったこともある。こんな恥ずかしい体では、プールも海も行けやしない。今度こそ絶対やせてやる。食事制限にウォーキング、プーアル茶に金魚運動。そのたびにメタボ君が言うのである。「あなたの体とこのたっぶりのお肉とは一心同体。長いことうまくやってきたじゃない。いまさら別れるなんてひどい！」と。

かくして私は、生まれながらの幼児体型を維持し続けている。しかし、今年も私は決意する「今年の夏がチャンスだ！メタボ君との別れは近い。」と。

(竜王中学校)

〔平成19年度 学校教育指導重点 (特別留意事項)〕

I 教育課程の編成と実施について

- 1 教育課程編成の工夫に努める。
- 2 指導方法と評価方法の改善に努める。
- 3 国語力の向上に努める。
- 4 総合的な学習の時間の充実に努める。

「特別留意事項」は、「指導重点」を踏まえ、各校で特に留意すべき事項です。

「指導重点」の詳細については、各学校に配付の「山梨県学校教育指導重点」をご覧頂くか、下記のURLにて、ダイジェスト版(PDF)を参照して下さい。

URL:<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/koukoukyo/40697736264.html>

II 心の教育の充実にについて

- 1 心の居場所となる学校づくりを目指す。
- 2 豊かな心をはぐくみ、命を大切にする教育に努める。
- 3 生徒指導のための組織の充実と機能強化に努める。
- 4 学校、家庭、地域社会及び各関係機関等との連携に努める。

III 体力・健康に関する指導の充実にについて

- 1 身体力テスト・健康実態調査を適切に実施するとともに「健康・体力づくり一校一実践運動」を推進し、体力の向上に努める。
- 2 健康教育の推進に努める。
- 3 部活動の工夫・改善に努める。

IV 開かれた学校づくりと安全確保について

- 1 開かれた学校づくりの推進に努める。
- 2 学校評価システムの確立に努める。
- 3 安全確保の指導の充実に努める。
- 4 安全管理体制の点検と充実に努める。

豊かな環境を守ろう ～今、自分たちの手でできること～

山梨市立笛川中学校

本校は、山梨市の北部に位置し、現在188名の生徒が、素直で明るく前向きな態度で勉学や部活動に励み、充実した学校生活を送っています。

近年、環境問題に対する取り組みが盛んになり、平成16年度から多数の生徒がkid's ISO 14000の認証を受けています。昨年度は生徒会活動の一環で「電気消し隊」「水を大切にし隊」を結成し、節電・節水に励みました。今年度も、全国初のスクールISO認証をめざして活動を続けています。

◇ 通学路をきれいに～親子クリーンアクション～

今年も5月12日（土）に恒例の親子クリーンアク

ションが実施されました。生徒会とPTAが一体となって、学区全域のゴミ拾いをするボランティア活動です。身近な地域の環境に目を向けるとともに、ゴミ処理問題を考えるよい機会となりました。

◇ 浮かび上がる富士の姿～巨大壁画づくり～

昨年度9月の学園祭（笛峰祭）では、牛乳パックを利用した巨大壁画づくりに挑戦しました。「富岳三十六景」（葛飾北斎）の「神奈川沖浪裏」をモチーフに、校舎半面に及ぶほどの壁画を完成させました。本物に負けないほど堂々とした富士の姿がくっきりと浮かび上がった瞬間、生徒たちから思わず感嘆の声があがりました。



【親子クリーンアクションの様子】



【3,440枚の牛乳パックを使用した壁画】

市川高校のifプロジェクト

山梨県立市川高等学校

市川高校は1学年4クラスしかない小さな学校ですが、「小粒でもキラリと輝く」をキャッチフレーズに生徒、教職員が力を合わせて頑張っています。この春には卒業生の4人に1人が国公立大合格を決めたことをはじめ、文化活動では音楽部が県代表としてこの夏に島根の全国大会に出場、また体育活動では野球部が県代表として関東大会に出場しました。校内に一步入ると、昭和

の学校が彷彿するようなほのぼのとした空気の中に、全国の一流を知り一流に挑戦し続ける気概が溢れています。こんな市川高校のありのままの姿を広く情報発信する方針を立て、ifプロジェクトを立ち上げました。

ifプロジェクトの第1弾として、前年度4月から月刊広報誌「if」を発行し、中学生や地域の人たち

に配布しました。写真を多く取り入れ、読みやすい文章に心がけています。多くの人たちに本校を理解していただきましたが、この発行により在校生達が自分の学校を再発見し、愛校心を高めたことは予期せぬ副効果でした。ifプロジェクトの第2弾は「市川アーカイブス」、本校の歴史の一部を写真パネルや懐かしい学校備品などで紹介するコーナーです。謄写版、蓄音機、幻灯機、昔の学校では、このような家庭にはないものを通して子供達の心に文化を育んできました。そんな古き良き時代に思いをはせるタイムカプセルのような空間に、地域の方々など大勢の方々が訪れ、昔話に花を咲かせてくれました。今まで時代を築いてきた人々と、これからの時代を築く若者との交差点のような役目を果たしています。



教職員に多様な研修機会を

山梨県総合教育センター 教育指導部

学校教育の直接の担い手である教職員に対して、今日、大きな期待が寄せられるとともに、その資質や指導力の向上についても社会的な関心が高まっているところ です。中教審は「新しい時代の義務教育を創造する」において、優れた教師の条件として、次の点を指摘しています。その第一は、教職に対する強い情熱：教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感など。第二に、教育の専門家としての確かな力量：子ども理解力、児童生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力、教材解釈の力など。最後に、総合的な人間力：豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力していくこと。以上大きく三つの要素を挙げています。

山梨県総合教育センターでは、答申

の趣旨を踏まえるとともに、今日的な教育課題を的確に見据え、教職員の資質向上に資するよう平成一九年度も一六八研修会（延べ約三六〇回）を企画・調整して実施しています。



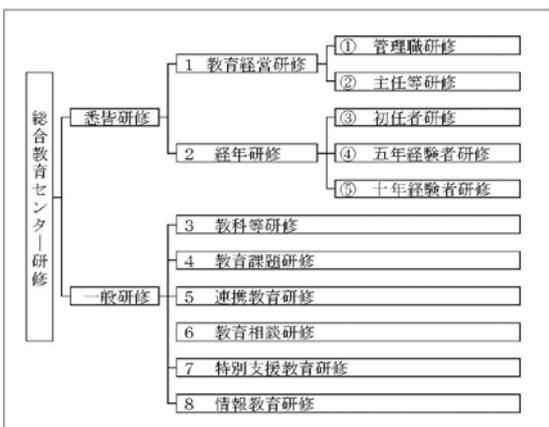
山梨県総合教育センターで行う研修
本センターで行われる研修は、図のとおり悉皆研修と一般研修で構成されます。

悉皆研修とは、経験や職能に応じて該当する教職員に受講が義務づけられた研修のことで、管理職研修・主任等研修等の教育経営研修、初任者研修・五年経験者研修・十年経験者研修等の経年研修がそれです。これらは、教職員の職務内容や経験年数に対応しており、ライフステージに応じて必要とされる資質能力の向上や知見を高めるための研修です。また、初任者研修と十年経験者研は法制研修です。

一般研修は、教職員が個々の希望で受講できる研修です。各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間に関する教科等研修のほか、環境・福祉・食育等、今日的な問題に関する教育課題研修、広く一般県民や幼稚園等の関係者にも開放される連携教育研修、教育

相談・特別支援・情報教育の各部における専門的な研修も数多く用意しています。これら一般研修は、教職員としての専門的な知識や実践的な指導力を高める研修といえます。

多くの期待が寄せられる教職員に対して、山梨県総合教育センターでは、このように多様で充実した研修機会を提供しています。



『図書館員の道具箱…テーマ別調べ方ガイド…』

山梨県立図書館



県立図書館外観

山梨県の方言を調べる

地域で古くから使われてきた言葉は、地域の姿を生き生きと伝えてくれます。私たちの生活に深く根ざした言葉・甲州方言を調べるための資料をご紹介します。



書庫に並ぶ資料の数々

- ◆ 方言の意味は、方言辞典や甲州方言の語彙集で調べることができます。

【辞典】 全国の方言を五十音順に検索できます。

『日本方言大辞典』 全3巻 (小学館 1989)

【語彙集】 山梨の方言をまとめた資料です。五十音順に掲載しています。

『甲州方言』 増補改訂 (深沢泉著 甲陽書房 1979)

『甲斐方言稿本』 (羽田一成著 大和屋書店 1925)

『やまなしの方言と俚語』 (小西与志夫著 泰流社 1976)

『甲州弁を読む』 (渡辺雄喜著 東京図書出版会 2005)

- ◆ 地域ごとの方言について書かれた資料からも調べてみましょう。

【市町村誌 (史)】

自治体域ごとにまとめられた市町村誌 (史) には、言葉の項目が設けられている場合があります。

*例：『甲府市史』 別編(特)民俗 (甲府市 1988) → 第4章「言語生活」。

【語彙集】 地域の団体や個人が編集した語彙集もあります。主に方言の五十音順で検索できます。

*例：『甲州の方言私抄 須玉町江草近傍の俚言』 (石原望著 文芸社 2002)

『奈良田の方言』 (山梨民俗の会 1957)

『新明解古郷語辞典』 (西嶋民俗史研究会 2004)

『大月周辺の方言小辞典』 (小林秀敏 2000)

『いってんべー 吉田っことば』 (小俣善熙 2001)

『鳴沢村のことば』 改訂版 (鳴沢村教育委員会 1986) など…

- ◆ 標準語から方言の語彙を調べられます。五十音順で検索できます。

『現代日本語方言辞典』 全9巻 (明治書院 1992-1994)

『日本方言辞典－標準語引き』 (小学館 2004)

- ◆ CD-ROM 資料では、方言と標準語の双方からの検索が可能です。

『デジタル版山梨方言集』 2003 (八ヶ岳高原ことばの学校・山梨ことばの会・地域資料デジタル化研究会)

※今回紹介した資料以外にも関連資料がございます。ご利用ください。

山梨の文化財

県指定有形文化財(考古資料) 棲雲寺開山墓出土常滑甕(棲雲寺)

(平成十九年四月二十六日指定)

本資料は、県指定開山墓の下部から出土した大甕で、破片資料として県教育委員会が保管し、昭和五十七年に復元された後、棲雲寺に納められたものです。開山墓は、棲雲寺開山の業海本浄禅師の入滅(一三五二)の翌年に建立された宝篋印塔で、その塔下から常滑甕が確認されました。発見時には、甕の内部に若干の骨片や、副葬品と思われる古銭の出土もあつたとされていますが、埋設状況等の詳細は解っていません。

常滑甕は、高さ六十八・三cmを測り、自然釉がみられ、広口の口縁で折端は厚く、肩の張りは大きい。また、肩部には「天」の文字のスタンプが4箇所を押されており、これについては、窠印とはせず、棲雲寺の山号である天目山の「天」を押捺したものと、棲雲寺の特注品であった可能性も考えられています。



出土状況から、蔵骨器としての機能、納められた人物等の特定が把握できる貴重な事例で、宝篋印塔下の出土品として不離一体であり、十四世紀の常滑焼編年の基準資料として、実年代が特定できる極めて貴重な資料とされています。

主な行事予定

県立博物館 シンボル展 歌川広重の甲州日記 6/26～7/29	県立美術館 特別展 「シュルレアリスム展 謎をめぐる不思議な旅」 6/25～7/8 「親と子で見る絵本原画展―宮城県美術館コレクションから―」 7/21～8/26	文学館 常設展 第一室 「戦国時代小説の魅力」 5/9/2 第二室 山梨県出身・ゆかりの作家と作品コーナー(小説・評論等) 5/9/2 考古博物館 夏季企画展「中部東海の地上絵」 7/14～9/2 チャレンジ博物館「親子で縄文土器をつくらう」 7/21、7/28、8/11
--	---	---

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

- ◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。
 アドレス: kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX: 055 - 223 - 1744
- ◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。
 URL: <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyouiku/46150769857.html>

表紙を飾る



作品タイトル
「笑顔」

山梨市立山梨南中学校
第一学年 望月 千晶

<学校生活のよいところ・改善したいところ>
 私の学校の良いところは?一番はじめに浮かんだのがたくさん笑顔でした。私の学校は一人一人を大切にします。だから個性を尊重してつくりあげる「ONLY ONEの笑顔」が良いところだと思いました。この課題は立体ポスターという条件なので、段ボールを台にし、その上にオリジナルの笑顔のキャラクターを作り立てかけるように貼りました。「笑顔」という言葉を一番伝えなかったので、粘土を使い強調しました。この制作を通して改めて私の学校の良さを確認することができました。作品を見るすべての人に私の気持ちが伝わるとうれしいです。

指導者 平井真知子 教諭